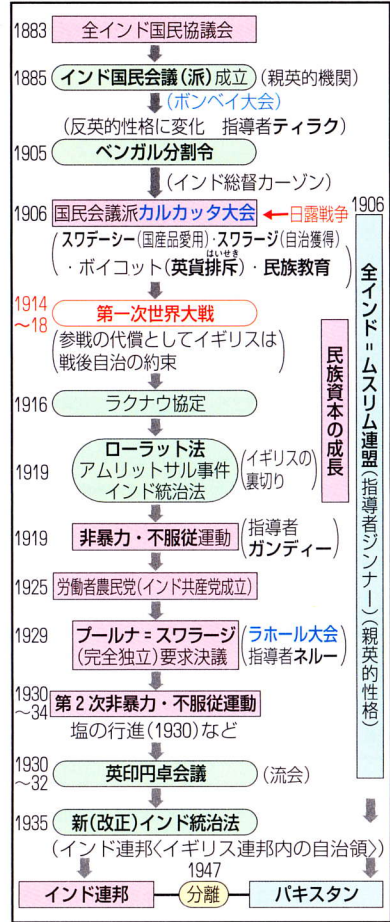
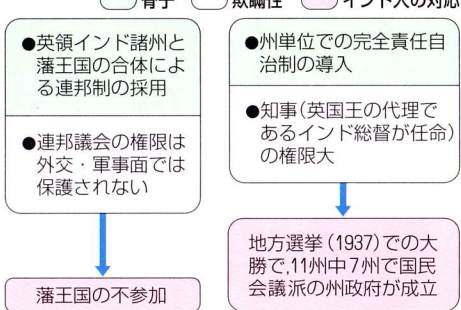


### 4 インド独立運動の進展 (P182年) (P223年)

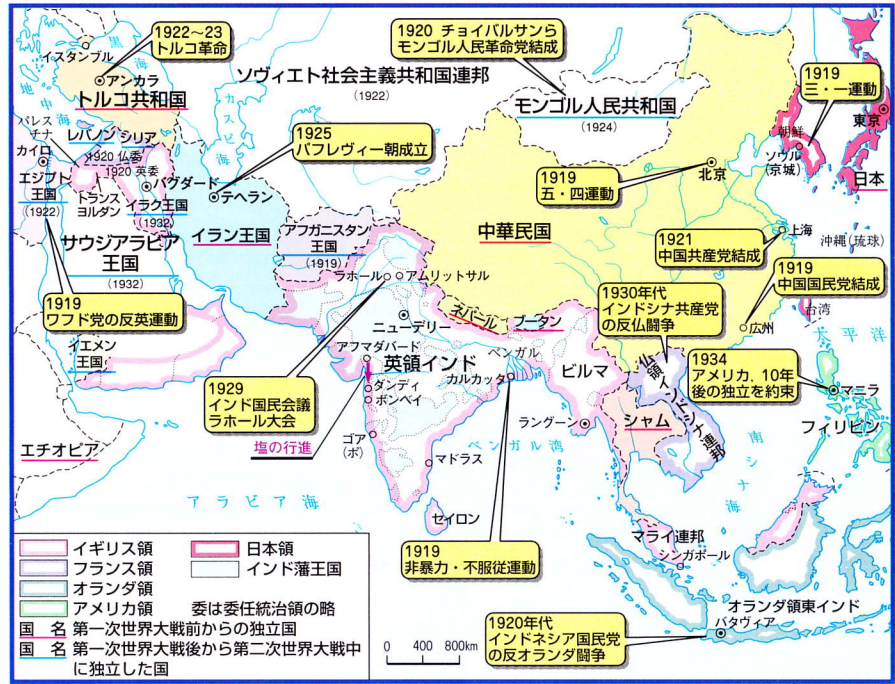


◆ネルー(左)とガンディー インドの伝統文化を重視し、非暴力・不服従運動を推進したガンディーと、西欧的合理精神に基づいて急進的な反英闘争を主張したネルーはしばしば対立した。しかし、ガンディーはネルーの指導力を高く評価しており、1929年インド国民会議ラホール大会でネルーは国民会議の議長に選出された。(P242頁史)

### ●新インド統治法(1935)の欺瞞



### 5 第一次世界大戦後のアジア



### ●アジア人留学生と民族運動

20世紀前半、アジアの民族運動を指導した者の多くは、19世紀末~20世紀初頭にヨーロッパに留学・滞在していた経験を持ち、そこで西歐民主主義やロシア革命の影響を受ける中で、自らのめざす民族運動の姿を形成していった。

●ネルー(英・ケンブリッジ大学留学) ●孫文(ロンドンに滞在・『倫敦被難記』執筆)  
●ホー=チ=ミン(仏・共産党に入党) ●ガンディー(英留学、南アフリカで弁護士活動)

◆フランス滞り時代のグエン=アイ=クォク(後のホー=チ=ミン)(1890~1969)



### 塩の行進

反英闘争の対象を高率の塩税と製塩禁止法に定めたガンディーは、1930年79人の弟子達とともに約380kmをデモ行進し、23gの塩を作った。ガンディーは逮捕されたがこれを機に民族運動は再び燃え上がることとなった。



### 6 東南アジアの民族運動(19世紀末~第二次世界大戦中) (P183,191年) (P223年)

イギリス領ビルマ(ミャンマー)	シャム(タイ)	フランス領インドシナ連邦(ベトナムなど)	オランダ領東インド(インドネシア)	アメリカ領フィリピン
	○緩衝国として独立維持 1905 ラマ 5 世(チュロンコーン)の改革(近代化)	1905 <b>ファン=ボイ=チャウら維新会の東遊運動感んとなる</b> 1907 日仏協約(反仏運動取締りを約束) 1912 ファン=ボイ=チャウら、ベトナム光復会の反仏運動開始	19世紀末~サミン運動 1908 ブティ=ウトモ(知識人主体)の民族運動団体の結成 1911 <b>サレカット=イスラム結成</b> (イスラム教徒の自治要求団体)	1892 カティブ=ナン結成 1899 マロロス共和国発足 1901 独立運動指導者アギナルドの逮捕 ○フィリピン人の反米運動と米国内の世論高揚
○第一次世界大戦中に独立運動起こる 1930 サヤ=サンの農民反乱 1935 <b>新インド統治法</b> でインド帝国から分離決定 1937 ビルマ統治法で準自治領となる ○タキン党の独立運動(アウン=サンらが即時完全独立を要求) 1942 日本軍による占領開始 1944 反ファシスト人民自由連盟(AFPFL)結成、反日武装闘争	1925 対欧米不平等条約の撤廃 1927 人民党結成 1932 タイ(シャム)立憲革命(立憲君主政に移行) 1939 国号を「タイ」と改称	<b>第一次世界大戦</b> 1925 <b>ホー=チ=ミン、ヴェトナム青年革命同志会結成</b> 1927 ヲトナム国民党結成 1930 <b>インドシナ共産党成立</b> (指導者ホー=チ=ミン)	1920 <b>インドネシア共産党(アジア初の共産党)成立</b> ○インドネシア国民党(指導者スカルノ)の民族主義運動	1916 ジョーンズ法(自治獲得) 1934 アメリカ、10年後の独立を約束
	○第二次世界大戦中はピブン首相が日本に協力	1940 日本軍の進駐 1941 ホー=チ=ミン、ベトナム独立同盟(ヴェトミン)を結成	1942 日本軍の進駐 (P215頁写) ○第二次世界大戦中、対オランダ独立運動を準備	1942 日本軍による占領 ○第二次世界大戦中、フカラハップによる反日闘争

青字：日露戦争の影響  
赤字：ロシア革命の影響